

「夢」をもち、「夢」に向かって努力する生徒

# 原北中学校 学校通信



令和 3年 1月25日 第18号  
福岡市早良区小田部7-11-1  
電話 092-851-3344  
発行者 校長 福崎 浩 信



## 緊急事態宣言下、健康管理に対する更なる引き締めを・・・

15日から、3年生は9時10分から登校、50分3コマの授業後、給食、清掃、帰りの会にしています。1・2年生は通常通りですが、部活動の朝練習は中止しています。

## 問題発見能力、問題解決能力ということばをよく耳にするようになりました・・・

3学期の始業式はこの冬一番の寒い一日でした。翌日にかけての積雪、凍結に備えて、部活動生数名が、東門、西門から各学年の昇降口にかけて塩化カルシウムの散布の手伝いをしてくれました。作業を始めて間もなく、一人の生徒が、「塩化カルシウムを撒いたら何で凍らないのだろう？」という疑問を周りの生徒に投げかけました。

塩化カルシウム（融雪剤）の散布によって、成分が水に溶けて凝固点降下が起こり、融点が低下します。これによって、融点が気温を下回れば雪は水へと変化します。加えて塩化カルシウムが水に溶けるときに発生する溶解熱も、融雪に関係があります。しかし、低下する融点は数度から十数度程度であるため、極端に低い温度の中では効果が得られません。

A Iが今ある仕事の大半を担う時代にあって、「何を学んだか」ではなく、学んだことを基に、「問題を発見し解決していこうとする力」をつけることはとても重要です。

## 道は開ける(成せばなる) 「セレンディピティを磨こう・・・」

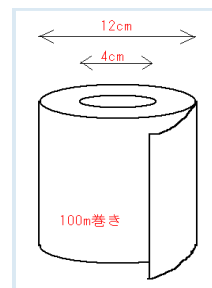
セレンディピティ（英語: serendipity）とは、素敵な偶然に出会ったり、予想外のものを発見すること。また、何かを探しているときに、探しているものとは別の価値があるものを偶然見つけること。  
平たく言うと、ふとした偶然をきっかけに、幸運をつかみ取ることである。

中学数学において、方程式は、1年生で一元一次方程式、2年生で連立二元一次方程式、3年生で一元二次方程式の学習をします。どの学年も、まず、与えられた方程式を解けるようにして、「方程式の利用」の学習で、与えられた問題にあった方程式を作って問題にあった答えを見つけていきます。

これからの時代に求められる資質・能力に、問題発見力、問題解決力があります。例えば、一元一次方程式を学習した後であれば、

- ① トイレットペーパーの紙の厚さは？  
芯に何回転巻き付けられているのだろう？
- ② 時計の長針と短針、4時と5時の間で、重なる時刻は？
- ③ 濃さの異なる食塩水、混ぜたら濃度はどうなるか？ など

「何を知っているか、何ができるようになったか」という個別の知識・技能の習得・再生に止まらず、「知っていること、出来ることをどう使うか」という思考力・判断力・表現力等や、「どのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るか」という学びに向かう力や人間性等にシフトした学びが求められています。



## 福岡市の学習定着度調査結果

昨年11月30日（月）、全市一斉に行われた福岡市学習定着度調査に2年生が挑みました。平成28年度から実施学年が1年生と2年生になり、実施教科は、国語、数学の2教科になりました。そして、本年度は、3年生になる前にこれまでの学習の成果と課題を明らかにするために、実施学年が2年生のみとなり、実施教科は、国語、社会、数学、理科、英語の5教科になりました。その結果が1月19日に届きましたので、先週、個票を配付したところです。そして、全体の分析が終了しましたのでお伝えします。

- 2年国語 全ての観点別得点率において福岡市の平均と比べて、本校の得点率が上回っています。大きく上回っている観点もあります。また、大問別得点率も全て福岡市の平均と比べて、本校の得点率が上回っています。大きく上回っている大問もあります。  
問題別に見てみると、読むこと（説明的文章）では、「空所補充（抜き出し・内容理解・記述）」が5問ほど正答率の低いものがあります。  
読むこと（随筆）や読むこと（古文）では、「空所補充（抜き出し・内容理解・記述）」が3問ずつ正答率の低いものがあります。書くこと（作文）では、正答率が10%程度となっています。
- 2年社会 全ての観点別得点率において福岡市の平均と比べて、本校の得点率が上回っています。大きく上回っている観点もあります。また、大問別得点率は、唯一「世界の諸地域」が福岡市の平均と比べて下回っています。しかし、「中世の日本」など、大きく上回っている大問もあります。  
問題別に見てみると、世界の国々の特徴、世界各地の人々の生活、世界の諸地域、地球上の位置、世界の気候、飛鳥時代の出来事など古代までの日本、中世の日本、日本の開国など近世の日本において、正答率の低いものがあります。
- 2年数学 全ての観点別得点率において福岡市の平均と比べて、本校の得点率が上回っています。大きく上回っている観点もあります。また、大問別得点率は、唯一「一次関数」が、福岡市の平均と比べて下回っています。しかし、「資料の活用」など、大きく上回っている大問もあります。  
問題別に見てみると、反比例、おうぎ形の弧の長さ、ヒストグラムの違い、文字を利用した説明、立体の体積の比較において、正答率の低いものがあります。
- 2年理科 全ての観点別得点率において福岡市の平均と比べて、本校の得点率が上回っています。また、大問別得点率は、「植物の生活と種類」、「動物の生活と生物の進化」が、福岡市の平均と比べて下回っています。  
問題別に見てみると、光合成の実験結果の考察、初期微動継続時間の計算、塩酸に入れた時に発生する気体、還元の実験結果の考察において、正答率の低いものがあります。
- 2年英語 全ての観点別得点率において福岡市の平均と比べて、本校の得点率が上回っています。大きく上回っている観点もあります。また、大問別得点率も全て福岡市の平均と比べて、本校の得点率が上回っています。大きく上回っている大問もあります。  
問題別に見てみると、英文を聞いて質問に英語で答える、場面にあった英文を完成させる、指示に従って書きかえる、対話の内容を読み取り質問に英語で答える、メモの内容に合った英文を完成させることにおいて、正答率の低いものがあります。

今後の取組として、これまで同様、

記述の力をつけるために、書く力の指導を常日頃から強化していく必要があります。幅広く考えるために領域を広げながら、いくつかの用法を書いてみせて規準を多く持ったり、語彙力を伸ばしたりする指導を行っていきます。

また、知識・理解・技能の習得と共に思考力・判断力・表現力を育む指導や、問題発見力や問題解決力を高める指導を行っていきます。

教育課程の見直しによる夏休み短縮、年間4回の土曜授業によって生み出された時間を補充・発展の時間に充てるなどの取組が、平成28年度から本格実施されています。

本校でも、定期考査前の補充学習を実施していますが、本市独自の学力調査である生活習慣・学習定着度調査からは、それによって基礎基本の確実な習得が進んでいる様子が伺えます。更に、平成30年度公立高校入学者選抜試験が5分延長実施（平成28年10月20日付福岡県教育委員会通知）されました。本校では、確認テストや定期考査において、思考力・判断力・表現力等を問う問題を意図的に出題しています。「事実や事柄を説明する力」「方法を説明する力」「理由を説明する力」など、次代が要請している学力を確実に付けるための教育活動を、更に充実させていきます。